

# 医療・環境保全・農村開発

## 医療支援

一人でも多くの命を救うために

保健省認可更新を無事終了、助産所運営は順調です

先月入手のPIHS年次報告に基づいて、活動の一部をお伝えします。

＜新規購入の診療車、フル稼働しています＞

前号で報告が間に合わなかった診療車の購入、8月中旬に「三菱L300の中古車を43万ペソで購入」の報告を受けました。ご協力いただきました皆様、改めて感謝申し上げます(詳細報告P4)。初産や高齢出産など産婦人科病院への搬送が必要な妊婦からの緊急要請にも応じることができ助かっています。

＜母子の命は助産所とコミュニティ活動で守る＞

8月末までの1年間の出産介助は50例で、前年度より少し増えました。一方で、コロナを含む感染症対策、免疫力強化にも有効な薬草活用、マッサージなどの東方療法、医療保険加入等を含む研修をコミュニティを中心に継続実施中です。

保健省認可更新も無事完了し、万全のコロナ対策のもと母子の命を守る活動は続きます。



深夜、新生児の状態を見回るナブサさん



診療車で無事ジェネラルサントス市郊外の辺境ピラーンの村サンホセに戻った母子

助産所を支える人材も育っています

PIHSを通じて支援の奨学生ザイラからも9月末に現況報告が届きました。

昨年5月末、臨床検査技師コース入学を目前にして父親ハッサンを銃撃で失ったザイラ。助産所を担う人材としても期待していて、急遽奨学金支給を決めました。この度、好成績で1年目を終了、2年目も在宅オンライン受講を頑張っているということでした。自宅と同じ敷地内にある助産所についても日々の収支記帳や医療保険請求などを手伝っているとのこと。在宅受講の課題は実習ですが、ザイラの場合、日々実習が可能で、すでに採血もできるようになったということです。

同じく奨学生として2年前に助産師コース終了のモナリサとともに、将来の助産所を担ってくれると期待しています。

## ボルールの患者支援その後

— 会員のご協力を継続的ヘルスプログラムに繋がります —

先月9月半ば、106号の患者支援記事に関連してご寄付の申し出をいただきました。公的補助でカバーできない医療費にという主旨を生かすため、コロナダルの市の契約職員として、患者を公的支援に繋いでいるボニファシオに検討を依頼しました。前回の緊急支援同様、ボルールの住民組合TBAが主体となり、さらに村の公立小教師メリアンほか、地域の元カレッジ奨学生数人もかかわって作成のヘルスプログラム案が届きました。

診断書や領収書に基づいての重症者5,000ペソ、軽症500ペソの見舞金とプログラム運用担当の手当を含む総額約13万ペソの予算で、この10月からの1年間で20-30名の患者を支援の予定です。なお前回緊急支援のミエルナについては、すでに村役場職員の仕事に戻ったという朗報が届きました。同時に支援の癌や人工透析患者計4名も良い状態で療養を継続できているそうです。



## アグロフォレストリー事業・成果報告

— 7年前のゴム苗木、樹液の採集が始まります —

年度内には収穫開始とお知らせの植林7年目のボルールで、ゴム樹液/ラテックス採集研修が始まりました。11月からの出荷に備えて、よりよい収入に結びつける指導が続いています。

持続的樹液収入は、環境保全という理念以上に森林農業推進の動機付となると期待されます。



## 開店休業状態のCOWHEDから

8月の終わり、COWHEDマネージャー・ジェナリンさんから近況が入りました。ほぼ2年ぶりです。「政府筋の注文しかないので、スタッフ一人を残して店舗は休業中」とのことでした。

フィリピン国内需要拡大もあり、製品購入による支援は不要とCOWHED自立を評価しましたが、長引くコロナの影響は大きいようです。一方、私たちもイベント等での販売機会がなく、特に縫製小物は在庫を抱えています。8月中旬、インテリア関連会社から、オブジェの試作にティナラク織端切れをという注文が入り対応しました。その際、良質の織については在庫不足と分かりました。コロナ次第ですがCOWHEDへの発注再開も考えたいと思います。

## サイドカーが届き、搬出の効率倍増です



前面に、「乗合」ではなく家用を示す「Private」の文字が見えます。

女性組合の委託を受けて、隣町スララの店舗に向かう竹籠満載の先住民族学校のサイドカー付きバイク(トライシクル)。学校農園の各種換金作物やアヒルの出荷でも大活躍しています。